No.1165

五輪めざして

—国際陸上—

モントリオール五輪まであと２ケ月余り、陸上春季サーキット最終戦、選抜国際競技大会が新緑さわやかな東京、国立競技場で開催され、男女26種目に熱戦が繰り広げられました。
男子、走高跳に出場のベテラン富沢選手、走高跳日本記録２メートル20を保持、日本のホープとして活躍している。しかしこの日は全くの不調、不本意な成績に終った。
右手首を負傷した高根沢選手の欠場でさびしいものになった棒高跳。今年の春アメリカで５メートル52の大記録を達成し、大いに期待された高根沢選手はスタンドから観戦。バーの高さが５メートル20に上げられるとこの日好調だった岩間をはじめ次々と失敗。
つづいてケニアの３選手が参加して行われた１万メートル、涼しい気象条件のもとスタートからレースはハイペースで進んだ４千メートル付近まで鎌田は先頭を走るケニアのモーゼをピッタリとマーク。後半に入ってもモーゼのピッチは衰えず、完全な独走体制に入り、そのままゴールイン。
つづいて鎌田が五輪参加標準記録を上回わるタイムでゴールイン。
しかし五輪に向けていまひとつ波に乗れない陸上界のようだ。

大ダコの舞う町

—静岡・浜松—

若衆たちの威勢のいいかけ声と共に大空へ舞いあがる大凧。静岡県・浜松市は大凧の町として全国に知られている。今をさる410年余り、現在の浜松城主、飯尾豊前守の長子、義広公の誕生祝いに義広公の名前を大凧に記して城中高くあげたのが始まりと言われている。
以来浜松では「初凧」といって長男が生まれると町内の若衆が端午の節句に祝い凧を贈ってあげるようになった。
参加50ケ町の大凧が大空せましと舞いあがる。ラッパを合図にいよいよ凧合戦。「初凧」は通常合戦には用いないがたくましい〝浜松っ子〟に育つよう両親が戦いをいどむこともある。
糸は直径８㍉程の麻糸。糸が幾重にも入り乱れて戦いは最高潮。少しでも休んでいると凧ははるかかなたへ。子供たちの健康を願ってこれからも勇壮な凧合戦は続けられることだろう。